

『計量国語学』アーカイブ

ID	KK300302
種別	研究資料
タイトル	『大正・昭和戦前期 政治・実業・文化 演説・講演集 —SP盤レコード文字化資料』
Title	The Transcribed Data of Recorded Speeches and Lectures by Eminent Politicians, Military Officers, Business People, and Cultural Figures in the Taisho and Early Showa Period.
著者	金澤 裕之, 相澤 正夫
Author	KANAZAWA Hiroyuki, AIZAWA_Masao
掲載号	30巻3号
発行日	2015年12月20日
開始ページ	146
終了ページ	154
著作権者	計量国語学会

研究資料

『大正・昭和戦前期 政治・実業・文化 演説・講演集
—SP 盤レコード文字化資料』

2015 年 4 月 日外アソシエーツ A5 判 450 ページ 12,000 円 + 税

金澤 裕之 (横浜国立大学)
相澤 正夫 (国立国語研究所)

要旨

本書は、SP 盤レコードに遺された、大正から昭和戦前期の政治家・軍人・実業家・文化人などの演説・講演を、言語研究の専門家が可能な限り忠実に文字に起こし、演説者ごとに収録した「文字化資料集」である。本書作成の基盤となったのは、芸能史研究者・岡田則夫氏の提供・編集・監修により、2010 年 5 月にデジタル音源集として販売された『SP 盤貴重音源 岡田コレクション』で、資料の作成は、国立国語研究所の共同研究プロジェクト「多角的アプローチによる現代日本語の動態の解明」(基幹型, リーダー: 相澤正夫) による活動の一環として行なわれた。本書の出版により、「20 世紀前半の公的な堅い言い回しの口語資料」として日本語の歴史的な面からの研究はもちろんとして、近現代の政治・経済・文化などの面においても、新しい側面からの研究が展開される可能性が期待される。

キーワード: 大正期, 昭和戦前期, 政治家, 軍人, 実業家, 文化人, 演説, 講演,
SP レコード, 文字化

1. 編集の経緯

本書は書名に表わされている通り、「SP 盤レコード」に遺された、「大正から昭和戦前期」の「政治家・軍人・実業家・文化人など」の「演説・講演」を、言語研究の専門家が可能な限り忠実に文字に起こし、演説者ごとに収録した「文字化資料集」である。大正から昭和戦前期を含む 20 世紀前半の時代、音声の記録媒体の主役は SP 盤レコードであったが、このような録音資料については、近代語研究に新たな展開をもたらす可能性が指摘されている(金澤 2015a, b)。

今回、文字化資料を作成する契機となったのは、芸能史研究者・岡田則夫氏の提供・編集・監修により、2010 年 5 月に『SP 盤貴重音源 岡田コレクション』(日外アソシエーツ) がデジタル音源集として販売されたことである。録音時間の総計が 18 時間余りに及ぶ大量の SP 盤レコード音源は、このデジタル化により一気に 21 世紀の現代に蘇ったと言ってよい。日本語研究の立場からすれば、資料的価値の指摘はあったものの容易に近づけなかった資料群が、活用可能な新規資料として発掘しなおされたのである。

資料の作成は、国立国語研究所の共同研究プロジェクト「多角的アプローチによる現代

日本語の動態の解明」(基幹型, リーダー: 相澤正夫)による活動の一環として行なわれた。漢字仮名交じりによる文字化は, プロジェクト・メンバーの金澤裕之が一貫して担当したが, 正確を期するための聴き直し作業には, 相澤正夫ほか, メンバーの尾崎喜光, 金愛蘭, 田中牧郎, 新野直哉, 松田謙次郎の各氏が分担して協力した。その結果, 約 18 時間の音声資料から約 40 万字分の漢字仮名交じりテキストが, 新たな言語資源として産み出された。本書は, その主要な部分を取める抜粋版であり, 「読める資料」としても編集に意を用いた。

2. 内容と構成

収録した演説・講演は, 89 名の演説者による 135 編である。SP 盤レコードの録音時期を「大正～昭和初期」「昭和 10 年頃以降」に大別し, 次に「政治家」「軍人・官僚」「実業家」「文化人・宗教家・ジャーナリストなど」に分類, その中は演説者の氏名の五十音順に配列した。演説者と演題の全容は次の通りである。なお, ()内の数字は, その演説者の演説・講演が 2 編以上の場合の数を示す。また, 演題の後の〔 〕内は収録時間を示す。(冒頭に「*」を付した青木庄蔵によるものは, 次節に実例の前半部分を掲げている。)

◆大正～昭和初期 [56 名, 88 編]

【政治家】

- ・犬養毅(2) 「強力内閣の必要」[4:09], 「新内閣の責務」[5:53]
- ・井上準之助(2) 「危ない哉! 国民経済」[6:31], 「地方政戦に直面して」[7:02]
- ・宇垣一成 「伸び行く朝鮮」[3:11]
- ・内田良平 「日本の天職」[6:36]
- ・大隈重信 「憲政ニ於ケル輿論ノ勢力」[17:13]
- ・岡田啓介(2) 「総選挙に際して」[7:36], 「愛国の熱誠に懇ふ」[3:21]
- ・尾崎行雄(3) 「司法大臣尾崎行雄君演説」[28:09], 「普選投票に就て」[21:31], 「正しき選挙の道」[7:17]
- ・木下成太郎 「御挨拶に代へて」[6:47]
- ・木村清四郎 「私の綽名『避雷針』の由来」[7:06]
- ・小泉又次郎 「理由ナキ解散」[6:40]
- ・後藤新平 「政治の倫理化」[12:53]
- ・阪谷芳郎 「人間一生の信念」[5:09]
- ・桜内幸雄 「総選挙ニ際シテ」[5:23]
- ・島田三郎 「非立憲の解散・当路者の曲解」[18:25]
- ・高橋是清 「金輸出再禁止に就て」[10:44]
- ・田中義一(2) 「護国の礎」[6:48], 「国民ニ告グ」[5:50]
- ・頼母木桂吉 「総選挙ニ直面シテ」[4:56]
- ・永井柳太郎(6) 「普通選挙論」[11:45], 「第二維新の理想」[12:51], 「正シキ政党ノ進路」[6:29], 「独善内閣勝つか国民大衆勝つか」[5:43], 「強く正しく明るき日本の建設」[5:35], 「通信従業員諸君に告ぐ」[6:54]

- ・ 鳩山 一郎 「犬養内閣の使命」〔4:32〕
- ・ 浜口 雄幸 「経済難局の打開について」〔19:34〕
- ・ 広池 千九郎 「モラロジー及び最高道徳の特質」〔6:17〕
- ・ 町田 忠治(2) 「総選挙ニ際シテ国民ニ懇フ」〔5:26〕, 「政界の浄化」〔3:02〕
- ・ 松岡 洋右(2) 「青年よ起て」〔5:49〕, 「日本精神に目覚めよ」〔30:25〕
- ・ 松田 源治 「挙国一致ノカヲ以ッテ難局ヲ打開スベシ」〔5:50〕
- ・ 間部 詮信 「大行天皇の御幼時を偲び奉りて」〔4:49〕
- ・ 武藤 山治 「政党ノ政策ヲ確ムル必要」〔6:06〕
- ・ 森 恪 「日本外交は何処へ行く」〔3:47〕
- ・ 山道 襄一 「地方政戦に直面して」〔7:17〕
- ・ 芳澤 謙吉 「対支政策」〔4:38〕
- ・ 若槻 礼次郎(2) 「総選挙に臨み国民に懇ふ」〔6:51〕, 「地方政戦に直面して」〔7:51〕

【軍人・官僚】

- ・ 小笠原 長生(2) 「日本海海戦に於ける東郷大将の信仰」〔6:35〕, 「乃木將軍の肉声と其想出」〔2:55〕
- ・ 多門 二郎 「凱旋後の所感」〔5:26〕
- ・ 東郷 平八郎(5) 「連合艦隊解散式訓示」〔6:13〕, 「軍人勅諭奉戴五十周年記念」〔6:35〕, 「日本海海戦 第一報告と信号」〔1:05〕, 「軍人勅諭」〔0:47〕, 「三笠艦保存記念式祝辞」〔1:49〕
- ・ 東條 英機(4) 「皇軍感謝決議に対する東條陸軍大臣謝辞」〔2:22〕, 「東條陸軍大臣閣下御訓示」〔6:37〕, 「大詔を拝し奉りて」〔7:16〕, 「戦陣訓」〔20:37〕
- ・ 長岡 外史(2) 「飛行機の大進歩」〔7:08〕, 「太平洋横断に際し全国民に懇ふ」〔3:25〕
- ・ 秦 真次 「弥マコトの道に還れ」〔6:10〕
- ・ 松井 茂 「『火の用心』の講演」〔3:12〕

【実業家】

- ・ 渋沢 栄一(3) 「第七十五回誕辰祝賀会」〔5:38〕, 「御大礼ニ際シテ迎フル休戦記念日ニ就テ」〔11:34〕, 「道徳経済合一説」〔11:11〕
- ・ 津下 紋太郎 「石油事業について」〔3:08〕
- ・ 成瀬 達(3) 「創業五十周年に際して」〔3:17〕, 「我等の信条」〔3:21〕, 「二十億円達成に際して」〔3:23〕
- ・ 弘世 助太郎 「我等の覚悟」〔3:23〕
- ・ 牧野 元次郎(4) 「神守不動貯金銀行」〔5:08〕, 「貯金の三徳」〔4:45〕, 「ニコニコの徳」〔5:41〕, 「良心運動の第一声」〔10:48〕

【文化人・宗教家・ジャーナリストなど】

- * ・ 青木 庄蔵 「国家的禁酒注意」〔5:36〕
- ・ 大谷 光演 「戦いなき世界への道」〔6:39〕
- ・ 賀川 豊彦 「恋愛と自由」〔6:51〕

- ・加藤 直士 「皇太子殿下御外遊御盛徳謹話」〔6:40〕
- ・菊池 寛 「文芸と人生」〔6:17〕
- ・佐々木 清麿 「仏教講演」〔17:51〕
- ・下田 歌子(2) 「皇太子殿下ご誕生を祝し奉る」〔13:39〕, 「喜寿記念碑除幕式に際して所感を述ぶ」〔5:03〕
- ・杉村 楚人冠 「湯瀬の松風 (作詞者の口上)」〔2:37〕
- ・高田 早苗 「新皇室中心主義」〔5:59〕
- ・高原 操 「訪欧大飛行航空講演」〔3:34〕
- ・田中 智学 「教育勅語の神髄」〔19:23〕
- ・野間 清治(2) 「武道の徳」〔3:54〕, 「私の抱負」〔2:06〕
- ・穂積 陳重 「法律の進化」〔5:37〕
- ・山室 軍平 「世界を神に」〔3:20〕

◆昭和 10 年頃以降〔33 名, 47 編〕

【政治家】

- ・秋田 清 「皇軍感謝決議趣旨弁明」〔1:30〕
- ・麻生 久 「新体制準備委員会委員の言葉」〔2:34〕
- ・安達 謙蔵(2) 「選挙肅正と政党の責任」〔3:14〕, 「地方政戦に直面して」〔12:37〕
- ・安部 磯雄 「選挙肅正と政府の取締り」〔3:03〕
- ・有馬 良橘 「国民精神総動員の強調の記念録音レコード」〔5:26〕
- ・岸本 綾夫 「昭和十八年武装の春」〔3:18〕
- ・近衛 文麿(3) 「新東亜の建設と国民の覚悟」〔13:44〕, 「時局に処する国民の覚悟」〔17:01〕, 「日独伊三国条約締結に際して」〔10:25〕
- ・斎藤 実 「憲政の一新」〔2:40〕
- ・重光 葵 「重光総裁」〔6:39〕
- ・田澤 義鋪(2) 「国家の為に我々の為に」〔3:28〕, 「選挙の真精神」〔6:06〕
- ・徳川 家達 「済生会の使命に就いて」〔3:28〕
- ・永田 秀次郎 「総選挙肅正に就いて」〔3:12〕
- ・中野 正剛(3) 「総選挙と東方会」〔11:34〕, 「米英撃滅を重点とせよ」〔6:24〕, 「国民的政治力を結集せよ」〔7:00〕
- ・林 銑十郎 「国民諸君ニ告グ」〔6:12〕
- ・増田 義一 「立候補御挨拶並ニ政見発表」〔12:28〕
- ・山本 悌二郎 「対英国民大会」〔25:36〕
- ・米内 光政 「政府の所信」〔9:03〕

【軍人・官僚・実業家】

- ・加藤 寛治 「日本の軍人は何故強い」〔6:05〕
- ・古田中 博 「東郷元帥」〔6:38〕
- ・東京市情報課(2) 「或る少年航空兵」〔3:28〕, 「塵芥と戦争」〔3:03〕
- ・東京市報道課(2) 「みんな朗らかで親切に」〔3:06〕, 「れいれいれいれいれいれいれいれい」〔2:49〕

- ・平出 英夫(2) 「護国の神『特別攻撃隊』」〔25:34〕, 「提督の最期」〔33:40〕
- ・林 桂 「徴用者代表宣誓・社長林桂挨拶・万歳三唱」〔5:55〕
- ・星 一 「ホシチェーン会議に於ける星先生の講話」〔12:50〕
- ・矢野 恒太 「人生のゴール」〔5:53〕

【宗教家・ジャーナリストなど】

- ・佐藤 範雄 「普通選挙国民覚醒」〔4:44〕
- ・JOBK アナウンサー 「御大礼行幸実写」〔12:27〕
- ・竹脇 昌作(5) 「居庸関の激戦」〔2:58〕, 「空軍の華梅林中尉」〔2:34〕, 「一億起てり」〔6:21〕, 「労働組合の目的」〔3:47〕, 「組合の方針や動かし方を本当に決める一般組合員の力」〔3:50〕
- ・徳富 猪一郎 「ペルリ来航の意図」〔10:39〕
- ・鈴木 珪寿 「豊島高等女学校校長 鈴木珪寿先生講話」〔6:10〕
- ・服部 三智麿 「真宗の安心」〔5:34〕
- ・丸山 定夫(2) 「あの旗を射たせてください」〔3:18〕, 「きこえる」〔3:17〕
- ・和田 信賢 「母の勝利」〔6:56〕

3. 演説・講演の文字化について

演説・講演レコードの文字化において興味深い一つの事実は、文としての切れ目がほとんどの場合で明確なことである。一般に話しことばや談話資料の場合、それが自然なものであればあるほど、言いさしや倒置、また過剰な連続や省略などがあり、文としての切れ目や文末部分が明確にならない場合が多い。例えば、同じく SP 盤レコードで遺されている落語の録音資料の文字化の場合がその好事例である。ところがこれらの演説や講演資料の場合には、堅く整った表現を志向するためであろうか、文としての切れ目がおおむねはっきりしている。

この点は聴き取りや文字化作業における有利な点であるが、その裏返しとして、演説や講演の実践における草稿や原稿の存在を意識させる。資料の中には、完全な朗読調のものも少なくないし、中には、演説中に紙をめくる音がはっきり聞こえて、原稿を読んでいることが明らかな場合もある。そのように考えると、演説・講演レコード資料の場合は、音声が残され、その音声が伝達の媒介物になっているという点で口頭語であることは間違いないが、その内容の点から見ると、文章語的な性格が非常に強いことが明らかであり、日常的な口頭語の使用されることが多い落語などの場合とは、異質なものとして考える必要がある。

演説・講演レコードにおける音声の聴き取りは、例えば落語の場合などと比較すると、一般的には比較的容易と考えられるが、その理由と考えられるのは次のような諸点である。

- ・時代的に（十年以上）遅くなっているために、技術的な面などでの音の明晰性が高い。
- ・（今も述べたように、）文章語的な要素がかなり含まれていると考えられるため、文や節などの部分の認定が、比較的容易である。
- ・発言の主語に当たるものが、そのほとんどが話者自身であり、それがたまたま、話者以外のある想定された人物などであっても、発言の中で主語（話者）が交替するような例はほとんどなく、その部分での混乱が少ない。

ただし他方、内容が演説や講演であるが故に聞き取りが難しくなる要素もあり、それは次のような諸点である。

- ・語彙的な面で、漢語系の割合が高くなっているため、そうした漢語の語の識別（同音異義語の存在）の問題が頻繁に出てくる。
- ・堅苦しい内容や持って廻ったような表現が比較的多いため、重々しく古い表現や用語が多くなって、語の認定が難しくなる。
- ・特に軍人関係の演説の場合、（前記のような）古い表現や特殊な語彙の使用が多いのに加えて、その発音の仕方に独特な傾向が見られ、この点でも語の認定が難しくなりやすい。〔例えばアクセントに関して、東條英機の場合などに顕著だが、現在では平板型で発音されるのが一般的な「光栄」「成立」「障害」などの漢語が、頭高型で発音されることが少なくない。〕

4. 凡例及び実際の文字化部分の紹介

以下では、本書における実例の様子を理解していただくために、文字化に関わる凡例及び実際の文字化部分を紹介する。凡例の中に示した具体的な【例】は、本稿での便宜のために、後に掲げる青木庄蔵「国家的禁酒注意」（の前半部分）の中から、該当する部分をピックアップしたものである。

凡 例

- (1) 意味や内容を判断した上での、漢字仮名交じりの表記とする。漢字表記をどの程度使うかということに関して絶対的な基準はないが、読むだけで内容が理解できるという点を優先させ、また、可能な限り前後で矛盾が起きないように注意する。
- (2) 一文ごとに改行する。（ただし、引用部分などでは連続させることもある。）読点は、意味上の切れ目や、ポーズ（音声の短い休止）の見られたところなどに適宜付ける。
- (3) 聞き取りや判断の曖昧な部分には下線をほどこす。
【例】政治・教育・実業・宗教、皆しかり、……
- (4) そうも聞き取れる、という可能性のある表現については、その語の後ろに [] で示す。
【例】……、^よ拗ってきたところは、まず飲酒^{いんしゅう}〔因習〕にあり。
- (5) ルビは二種類を使い分け、ひらがなのルビの場合は、難しい読み方をしている場合や複数の読み方の中で選択されたものを示す。（ただし、「私」及び「日本」については、頻繁に登場する「わたくし」「にほん」という読みの場合にはルビを付けず、それ以外の読みの場合のみ、「わたし」「にっぽん」などのルビを付ける。）カタカナのルビの場合は、音としてはそのように聞き取れるが、文脈なども考慮すると判断が出来ない（或いは、難しい）場合を示す。
【例】・^{でけう}出来得べくんば… ・^{ごしち}在官者約五七万の… ・^{ヒツサイ}□□に際限なし。
- (6) 音の存在やその拍数はほぼ想定できるが、聞き取りが不可能な場合は、「□□」で示す。聞き取れない部分が続く場合は、「……………」を使用する箇所もある。
- (7) 補記は（ ）で示す。その他のコメントなどは《 》で示す。

青木 庄蔵「国家的禁酒注意」[5:36] 大正末 スタートン 音盤番号: B143

諸君、国家的禁酒とは、不肖私、甚だ僭越の言に似たれども、政治・教育・経済・宗教等、あらゆる方面とも、世はみな真面目の気分を欠き、忌憚なくこれを称せば、全て表面の一時的ごまかし、ただ自己これ念とし、滔々として空をなすの感あり。

ここにおいて余はかく覚えり。

ああ金銭これ何者ぞ。

名聞、人生に何ほどの意義ある。

□□に際限なし。

栄誉に満足ある、無し。

しかるに滔々として東奔西走、気もこれあらずという有様に、世は益々悪化しつつ、腐敗と墮落せしめつつ、抱ってきたところは、まず飲酒〔因習〕にあり。

政治・教育・実業・宗教、皆しかり、現代の有様にて進み行かば、国家をして亡国の民と等しきことに来し至らしむは必然なり、と深く信ず。

余はここにおいて、止むに止まれず、一身一家を顧みるの時にあらず。

出来得べくんば、社会人類のために、根本的飲酒の害を除去するにあり。

故に国民に教育して、法律の力により対酒国たらしむるにし如かず。

ここに二・三の例を挙げて、まず第一に、犯罪者たる我が国の在官者約五七万の往来と見て、八割までが飲酒の結果、また能率は三割を減ず、と統計によって表わしております。

即ち、十時間の労働者すれば、七時間より働きが出来ず、これは経済的に打算せば、机上の数字に表われてくるなり。

〔以下、レコード裏面の後半部分は省略〕

5. 今後の活用に向けて

本書に掲載された資料は、音源の収録時期と対象ジャンルから見て、「20世紀前半の公的な硬い言い回しの口語資料」として、まずは日本語研究への多角的な活用が期待される。一読すれば分かるように、忠実な文字起こしにより、話者の考え方や思想ばかりでなく、言葉遣いや話し方の特徴まで読み取ることができるからである。さらに、専門的な立場からの解説として、「文字化資料としての性格」(金澤裕之)、「歴史的資料としての価値」(岡田則夫)の2編を収録し、また、演者ごとに簡単なプロフィールを付しているのも、背景的な情報も併せて活用することができる。编者としては、本書が、言語研究の枠を超えて、例えば近現代の歴史研究をはじめとして幅広く活用されることを願っている。

文献

金澤裕之 (2015a) 「録音資料による近代語研究の今とこれから」『日本語の研究』
11(2):133-140.

金澤裕之 (2015b) 「明治末・大正・昭和前期の SP レコード資料一覧 一東京落語・大阪落
語・演説講演分一」『日本語の研究』 11(2):141-146.

(2015 年 9 月 15 日受付)

Resource

The Transcribed Data of Recorded Speeches and Lectures by
Eminent Politicians, Military Officers, Business People, and Cultural
Figures in the Taisho and Early Showa Period

KANAZAWA Hiroyuki (Yokohama National University)

AIZAWA Masao (National Institute for Japanese Language and Linguistics)

Abstract:

The book contains transcribed data of recorded speeches and lectures by eminent politicians, military officers, business people, and cultural figures in the Taisho and early Showa period. They are based on “Okada Collection of SP recordings” released in May 2010, which is a digitalized version of SP recordings collected by Norio Okada, transcribed by linguists as part of the NINJAL Project “Exploring Variation in Contemporary Japanese: Multiple Approaches (project leader: Masao Aizawa)”. This book will induce not only research on Japanese as public speech in the early 20th century from a historical perspective but also research on politics, economy, and culture of the modern period from a new perspective.

Keywords: the Taisho Period, early Showa Period, politician, military officer, business people, cultural figures, speech, lecture, 78 rpm disc, transcription